

オールブラックス来日に感動した年 第15期 毛利義之

15期は7名で昭和31年の入学。1年の時に東京代表決定戦で保善高校と闘ったのが、最大イベントであり、残念ながら大敗を喫して代表にはなれなかったが、この時同じく決勝戦で敗れた日本学園には、故北島大監督の子息である北島の晴坊が居た。彼も千歳を受けており一緒にやる事ができたら歴史は変わっていたかもしれない。

同期を紹介するとまず最初はキャプテンの小笠原昌彦。小さくてぶきっちよだが努力家でわがままなチームメイトを黙々と引っ張ってくれた。今はスーパーの主。ハーフバックの奥田恵三はシャレ男で、いつも髪型に気をつけており、プレスキックが得意で、スタンドオフの小笠原とは良いコンビであった。センターの市毛輝男は突進型で縦への切れ込みが得意。もうひとりの小畑良三は対照的にキックが巧く、横への展開が好きだった。フォワードには入学の時から3年生のような迫力の高木正が居り、同期のトライゲッターで、球を持ったらほとんど離さなかった。今では人づかいのうまい保険会社の取締役支社長。川上雅靖は入部時から細くていつもケガに泣かされていたが、見かけによらず負けずぎらいで頑張り屋だった。そして自分は何となく入部してろくに勉強もせず部室でゴロゴロしており、卒業後入社した東横(現東急百貨店)でラグビーの苦しさを嫌という程味わされたがお陰で全国社会人大会の東京代表として出場する事ができた。札幌の店を創設す

る為に東京を離れて24年、すっかり道産子になりきっている。

この場をお借りしてお世話になった諸先輩にお礼を申し上げたい。

さて我々の3年生の時の最大イベントはオールブラックスの来日であり、部活動そのものには、あまり記録に残るような事はないが、やってきた黒づくめの男たちにはとても感動した。

50年誌の原稿依頼が突然廻ってきた為、当時のものを探していたら、オールブラックスの来日記念のプログラムが残っており、ピカリングやスーパーという名前がなつかしい。又対戦相手の明大には北島監督の若々しい顔があり、全日本の代表選手には、土屋、宮井、寺西等と共に、片倉胖先輩の詰衿姿が写っている。

(早大FW 身長179cm 体重83kg 23才 千歳高校出身)

更に関東大学連合には安部正義(立教)の名前もあり、この記念すべき号に大先輩達の名前が残っている事は千歳高校の強かった事の証であろう。

私自身は東京を離れて母校にはすっかりごぶさたしているが、我々7名の同期にとっては千歳ラグビー部の三年間は青春そのものであり、ここで得たフォアザチームの精神は、社会人生活の終盤を迎えた今でもとても大切な心のささえである。最後に50年誌の作成にご苦労されている皆さまに感謝の気持ちを申し上げたい。